

岩崎式日本語使用者の協力による文法変遷表【共同編集】

2011年10月3日 起筆  
2014年9月5日 最終更新  
編集権保持者

- ◆代表者・考案者：岩崎純一
- ◆共同編集責任者：樋川夜涼、笠原久美子、中村美咲
- ◆一般の編集権保持者

		管理部門		使用部門	
岩崎式日本語についての立場	考案者・言語計画者	一応、このグループが(考案者がこの言語開発を譲ったり放棄した場合)岩崎式日本語の発想・体系を継ぐことになっている。			
メンバー	岩崎純一	← ネット訪問、勉強会参加など	樋川夜涼、曾我部丹佳、笠原久美子、中村美咲	⇔ メンタルヘルスなどの仲間や友達	
特徴	言語学的・哲学的・分析的。岩崎式日本語をある意味プログラミング言語のようにとらえている。感性を組み入れつつ、解離性障害や神経症やうつを入力できるコンピューター用の形式文法的なものを目指している。第四期。	←	語学的・感性的・情緒的。自分の友人や娘などが学校や仕事に行けなくなったというグループであるため、自分が積極的に使えるものではなく、友人や娘が使えるようなものを目指している。考案者へのフィードバック・橋渡し係。文法は第四期だが、文体は第三期。	⇔	神経症系・アスペルガー系・感性的・情緒的。現代日本語が理解できないというより、人前で話すのが緊張したり仕事で失敗したりして悩むため、メールやブログなどでこの言語を使うものの、できればわかる人にだけ符牒(ふちょう)的な使い方をしたいタイプである。文法は第四期だが、文体は第三期。
ネット上や他人への岩崎式日本語文公開	積極的だが、自分ではあまり使わない。	←	主に橋渡し役。岩崎式言語観の受け継ぎ手の位置。	⇔	統合失調症・解離系・複雑性PTSD系。精神的なことが原因で、思いきり失語になったり体調が悪化したりするため、本当は一番岩崎式日本語の使用目的に合っているグループである。わかる人にだけ符牒(ふちょう)的な使い方をしたいタイプである。文法は第四期だが、文体は第三期。
西暦					自宅・施設などからの考案者・管理部門への非公開メールや日記などに使用。秘密主義的、符牒的。

2000年頃	自作のアプリオリ言語の制作を開始。
2005年	言語障害を抱える発達障害者や解離性障害者用のアプリオリ言語としての制作に転向。これらの言語障害者と面識を持ったことの心理的影響による。
2006年	<b>スラフォーリア(第一期)</b> 言語名を正式に「スラフォーリア(壮大な血脈)」と命名。「ストルシア(朝)」・「フィリス(~です)」などの固有語彙を多数有し、アプリオリ言語としての立場を明確にする。定型発達者の母語としての現代日本語に対するアプリオリ言
2008年	固有語彙の多く(名詞中心)を放棄。現代日本語を変形させたアポステリオリ言語としての制作に転向。言語名「スラフォーリア」のみ残す。 <b>第二期岩崎式日本語</b>
2009年5月	抽化言・抽出言をそれぞれ未然形と已然形に分離。各自己意識(各我燈)における行為の達成の未遂・既遂を区別。
2009年6月	新言語名として「岩崎純一語」や「岩崎哲学言語」が提案され、何度か変更されるが、「スラフォーリア」に戻す。ただし以後、一部の使用者は「岩崎純一語」や「岩崎哲学言語」を用いた。提案は使用者による。考案者の個人名を冠することへの岩崎自身の躊躇により、正式
2009年12月	<b>第三期岩崎式日本語</b> 我燈を音便変化により整理。(「キウンファ」→「キウムファ」、「キンファイ」→「キムフィ」、「見レウ」→「見リュウ」など。)音便変化。二重母音を回避する日本語・環太平洋語圏の習慣に対応。
2010年10月	各自己意識(各我燈)における現代日本語の助詞・助動詞の使用制限(膠着構造の制限)を全て撤廃。世界保健機関の定めるICD-10及びアメリカ精神医学会の定めるDSM-IVと岩崎式日本語の連動性の導入にあたり、使用制限が無用の障壁となったため。

← 自立語部分のみ、あるいは付属語部分のみの文法ミスが見られる日本語母語話者の軽度・中程度の言語障害への対応を求める。

← 解離性障害・統合失調症・気分障害・発達障害者が願望する行為の実現度を文法に反映できないか提

2011年6月18日	<p>考案者自身により言語名の変更を呼びかけ。使用者より「新日本哲学言語」・「岩崎式巫女精神言語」などが提案される。9月、最終的に「岩崎式日本語」に正式に改称。言語の実態と言語名の著し</p>
2012年7月	<p>我燈・格詞・言などの必須語彙以外の第一期以来の固有語彙を全面廃止。現代日本語の変形させたアポステリオリ言語としての立場の明確化。</p>
2012年8月1日	<p><b>第四期岩崎式日本語</b> 基本我燈に「ワ(ワタシ)」を追加し、主に書き言葉で「ワ」を用いる。その他の燈詞も大幅に変更。ただし、従来の語も継続して使用可能。時空燈は廃止。正書法としては、現代日本語でほとんど使用しない文字や岩崎式日本語の固有単語の使用を控えるため。</p>
2012年8月1日	<p>活用我燈に格機能をそのまま音読みしたものを追加し、これを主要な活用我燈とする。ただし、従来の語と読みも継続して使用可能。同上。かつ、自己意識の位置を明確化するため。</p>
2012年8月1日	<p>活用語の言において最終モーラの子音を発音。二重母音を回避する日本語・環太平洋語圏の習慣に対応。</p>
2012年8月1日	<p>抽化言の未然形と已然形の音を交替。未然形が才行、已然形がイ行となる。母音の開閉・広狭を意味(未然か已然か)に対応させ、抽化言と抽出言との間でそれまでの「空前我」を「前我」と「擬我」に分類、それまでの「空我」を「初我」とし、「前・擬・初我」の三我を「空我」とした。</p>
2012年8月1日	<p>強度の解離性障害・統合失調症、重度の自閉症に対応。特に、虐待被害などに伴うコタール症候群・カプグラ症候群・フレゴリ妄想などの重度の妄想群罹患者の自己意識に対応。</p>
2012年8月1日	<p>「主我」を「主我一」から「主我五」までの五主我に分類。概念上はすでに存在していた分類に文法も対応。</p>

2013年2月24日

記号表記を導入。論理値表を作成。数学的・論理学的分析の導入による将来的なアルゴリズムとしての記述に向けての準備。

2013年2月28日

主我・真我・単我・複我・多我・超我・特殊我の概念、及び階層構造の明確化。解離性障害・統合失調症のより忠実に詳細な記述の実現のため。

## 岩崎式日本語で分割しないことが望ましい現代日本語の言葉【共同編集】

- 岩崎式日本語で文法的に分割しないことが望ましいと思われる現代日本語の言葉を書きこんで下さい。
- 入力方法はExcelとほぼ同じですが、機能制限があります。
- 別の参加者の書き込みを改竄するなどの不正行為が見られる方につきましては、アクセスブロックの対象となりますので、ご了承下さい。
- 誤って変更した場合、左上の矢印←マーク(元に戻す)を押して戻して下さい。
- 理由が「意味が通じなくなるため」である場合、特に記入の必要はない。

### 編集権保持者

- ◆代表者・考案者 : 岩崎純一
- ◆共同編集責任者 : 樋川夜涼、笠原久美子、中村美咲
- ◆一般の編集権保持者

単語	理由	備考
人見知り 裏切り 手入れ		

特に言語学的意義が見られないので、中断。